

2.冠婚葬祭と情報化に関する研究

はじめに

山田 慎也

本研究は、情報化という観点から近代以降の冠婚葬祭の変容についてその実態を明らかにすることを目的としている。

新型コロナウイルス感染症の流行も3年が経ち、感染状況も比較的落ち着いてきたことにより、政府は感染法上の位置づけを2類から5類へと分類を移行させ、日常生活もだいぶ元に戻ってきている。しかし新型コロナウイルス感染症自体がなくなったわけではないので、感染症には今後も気をつけて対処していかなければならないのであり、流行以前の形に完全に戻ることはできるわけではない。

それと同じように人々の生活も、直接的な接触が大幅に制限されていったなかで経験したさまざまな対応が3年間も継続していることで、その生活様式も浸透し、流行以前の生活様式に完全に戻ることはできなくなっている。とくにコロナ禍において冠婚葬祭のあり方が大きく変化していったが、その変化はコロナ禍による制約から生じたものも多いが、それにとどまらず、少子高齢化といったさまざまな社会変容によってすでに生じてきたものが、コロナ禍によって顕在化してきたものも多くみられるのである。

こうした社会変容の流れの中においては、本研究の課題となっている冠婚葬祭と情報化の関係は重要な観点である。このプロジェクトは二年目を迎え、それぞれの課題に取り組む中で、情報化による冠婚葬祭の多様な展開について検討を続けており、来年度の総括に向けてその中間的なとりまとめを行った。